



自分にできることをみつけよう!

福井市総合ボランティアセンター

# そうぼら通信

2020

令和2年  
12月発行

Vol.19

## ウィズコロナの市民活動!

新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの市民活動団体が制約を受けているなか、「コロナ禍でこそ出来ることを」と模索している団体があります。ふくい市民活動基金助成チャレンジコースでは、そうした活動を支援しています。

### (特非) 福井女性フォーラム

### オリジナルマスクを作って感染予防しよう!

発達障がいの方が安心して暮らせる社会を実現するための、就労継続支援B型事業所「さくらハウス」の開設など、女性や障がい者の自立支援事業を行っている福井女性フォーラム。事業所の職業訓練や作業訓練を通して、子ども用のオリジナルマスクキットを製作しています。キットは無地の布マスクと消しゴムハンコセット。子どもたちが好みのハンコで模様を入れ、洗って何度も利用できる自分だけのオリジナルマスクが作成できます。子どもたちがすぐにマスクを外してしまい、育児施設でも困っていることから、自分で作ったマスクに愛着をもって、感染症対策に取り組んでもらうことをねらいとしています。



### (特非) 福井芸術・文化フォーラム

### ハナレタアート

コロナ禍でも、アートは人と人とのつながりをつくることができます。ハナレタアートとは、人と人が離れることで成立する“ソーシャルディスタンスアート”。いろいろな“ハナレタ”モノやコトを気ままに体感・体験できる、ソーシャルディスタンスを逆手にとった、まちの活気や人々の活力を取り戻すアートイベントです。11月22・23日総合ボランティアセンターの交流ひろばで開催されました。



“ハナレタ”はハナレタあの人に手紙を書(描)くこと。ハナレタ郵便局が当日限りオープンしました!“イトデンワアソビ”や、誰かと協力しないと一人では輪にならない“ワットモ”、視力検査×ゲームの“カクレタアートゲーム”、入って何をするかは自由な定員1名の“ハナレタルーム”など、楽しい仕掛けがいっぱいで、子どもたちが楽しく遊んでいました。

### (特非) 自然体験共学センター

### 家族や友だちとリフレッシュ! 夏のちょっと チャレンジプログラム



福井市美山地区の自然の中で、コロナ禍でも心身のリフレッシュを図ることができる場を提供する目的で実施しています。

センターのスタッフや大学生ボランティアが、上味見川の川あそびなどをサポートし、子どもたちは楽しそうに小さい魚を網で追いかけていました。

自然体験共学センターでは、自然から学び生きる力を育む活動で、これからも子どもたちを応援していきます。



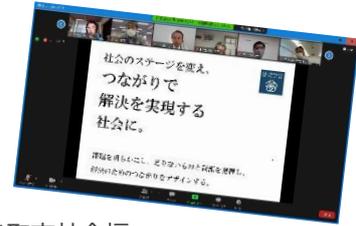
オンラインセミナーを開催

# 地域でのコロナ禍対応とSDGsへの取り組み



講師 (特非)岡山NPOセンター  
代表理事 石原 達也 氏

2001年大学生のみのNPO法人設立に参画し、2003年鳥取市社会福祉協議会に入職。ボランティアコーディネーターを務めた後、出身地岡山でNPO法人岡山NPOセンター事務局長に就任。現在は代表理事として、日本NPOセンター、日本ボランティアコーディネーター協会、SDGs市民社会ネットワークの理事など幅広く活躍。社会課題と社会をつなぎ、その解決に挑む人たちを支援している。



新型コロナウイルスは地域に様々な影響を及ぼしています。そして、その課題への対応は、持続可能な開発目標「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」の多くの目標と重なります。

セミナーでは、SDGsを改めて見直しながら、私たちの地域でどのような取り組みができるかを、企業と市民活動団体の協働で実践している講師と一緒に考えてみようというオンライン会議ツールを利用して開催。企業や公益法人、市民活動団体、個人、行政などから32名が参加しました。以下、セミナーの主な内容を採録で紹介します。

## 誰も体験したことのない社会

日本は過去にない人口バランスとなり、若い人が高齢者を支えることが難しくなっています。地域差が拡大し、新幹線が通っていないとか高速道路が無いようなまちの人口がどんどん減っていく。人口減少と少子高齢化が進むことによって、労働力が減り、税収が減っていってしまうことになります。若い人が減っていくことで活力を失い、限界集落など地域ごとに格差が出て、いろいろなインフラの維持もこれから難しくなっています。そんな中、気候変動の影響で毎年のように水害の被害が起り、そして「コロナ禍」。

これまで誰も体験したことのない社会へと変わっていく中、もうちょっとやり方を考えないと、まちを動かすことは難しくなっています。SDGsを参考にしながら、私たちの活動のあり方を考えていくタイミングに、今あるのではないのでしょうか。



らプラスアルファの配当がもらえる仕組みで、フィットネスクラブやスーパー、レストラン、スポーツ用品店や薬局などが一緒に取り組んでいます。それぞれが強みを活かしたプログラムを提供し、参加者はポイントがたまって、魅力的なプレゼントと交換できます。

参加した市民は自分と家族が健康になって、企業は顧客開拓などの販促につながり、出資者は社会事業に参加して配当がもらえます。うまくいくと、「四方よし」な展開になるのでは、と考えています。

## おかやま親子応援プロジェクト

新型コロナウイルスから、子どもたちの育つ機会と未来を守ることを目的に、連携して親子・子どもの育ちとお互いを支える「おかやま親子応援プロジェクト」。

例えば、アルバイトが無くなった学生たちに、オンラインで子どもたちに勉強を教えてもらっています。また、妊婦さんがマスクをして息が辛くて大変だということで、開発された快適なマスクを贈っています。さらに情報を得ることが難しい困窮家庭へのメールサービス(1,600世帯)なども行っています。

また、岡山NPOセンターとしては、その他にも、岡山のミニシアターを守るための応援団の立ち上げを行い、1,100万円以上の資金を集める支援や、熊本でコロナ禍の災害支援として、岡山のママさんグループが熊本の被災地ママをLINEで応援して、物資を届ける支援等にも取り組んでいます。



## おかやまケンコー大作戦

岡山でも生活習慣病になる方が非常に多く、楽しみながら健康維持できるような仕組みを考え、みんなが労力とお金も出し合っている「ソーシャル・インパクト・ボンド<sup>®</sup>」を導入しました。

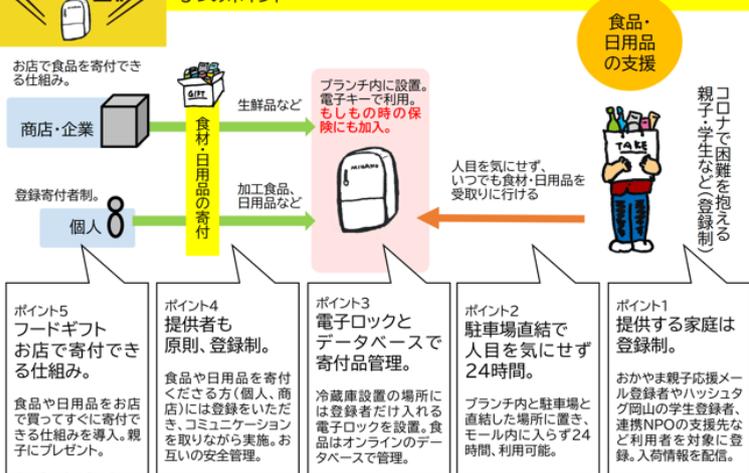
年間で約束した事業成果が出た



KITANAGASE Community Fridge

北長瀬コミュニティフリッジ(地域みんなの冷蔵庫)

5つのポイント



## 地域みんなの冷蔵庫

食べるものも無いような子どもたちが増えていることから、現在、新たにいろんな企業の方と連携でやろうと思っているのが「公共冷蔵庫(コミュニティ・フリッジ)」です。

フードドライブやフードバンクといった形で食べ物を提供する支援がありますが、なかなか渡すのが難しい。昼も夜も仕事をされていたりして時間が合わない。そもそもそれをもらいに行くことで、自分が大変な家なんだと分かるのが嫌だ。

そこで、24 時間いつでも取りにいける公共の冷蔵庫を作って、そこに寄付された食品を置いて取りに来てもらおう、ということを企画しています。

冷蔵庫は業務用メーカーにご提供いただき、電子ロックをかけて管理が出来るようにし、駐車場に直結した場所に置いて、登録した方に食材を取りに来てもらいます。スーパーには寄附ボックスを置かせてもらい、お店で寄附できる仕組み(フードギフト)を作ることで、店としても売り上げが上がっていきます。

食品ロスを防ぐので環境保護にもなり、注文が増えれば経済的にも寄与できる。なによりもコロナ禍でしんどくなった家庭を助けるという社会的包摂\*2につながります。

こうした、環境保護と経済成長、社会的包摂の三つがうまくつながるようなものを、SDGsの中でやっていけるとよいのではないかと思います。

## つながりで解決していくことが当たり前な社会に

コロナ禍で在宅勤務される方が増え、テレワークを推奨する企業も増えている一方、セルフレジやスマホ決済が増え、レジ打ちや倉庫整理といった仕事がどんどん無くなってきています。障がい者の事業所に今まで下請けできていた仕事がどんどん無くなっていて、仕事がなくなる人どこにいても仕事ができる人との「二極化」が、加速していくのではないかと考えています。SDGsは「誰一人取り残さない」という理念なので、それを緩和する活動ができる地域としてはよいのではないかと。

そういう意味では、民間によるまちづくりの力が非常に大事で、今日ご参加いただいたような方々や、行政による公益もあるし、地域で助け合いをする互助もある。「福井のまちをどうにかしたい」といった、共益的な気持ちで一緒にやっていく人たちが増えていって、そこが「第3軸」としてまちを支えていくことがこれから大事ではないかと思っています。

SDGsの目標をパートナーシップで解決しようと進んでいくことが、「つながりで解決していくことが当たり前になっていく社会」の実現につながるのではないのでしょうか。

\*1 ソーシャル・インパクト・ボンド(Social Impact Bond)とは、官民連携の仕組みの一つで、行政や民間事業者及び資金提供者等が連携して、社会問題の解決を目指す成果志向の取組。

\*2 社会的包摂(しゃかいてきほうせつ)あるいはソーシャル・インクルージョン(social inclusion)とは、社会的に弱い立場にある人々をも含め市民ひとりひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から擁護し、社会(地域社会)の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。社会的排除の反対の概念。

今回のセミナー参加者の6割はSDGsの取組みを始めており、その内容は、地域の清掃活動、子どもたちの工場見学受入、絵本のブックサイクル、障がい者のカーライフサポート、AIを活用した防災プロジェクト、持続可能なサプライチェーン構築、フードドライブや子ども食堂食材支援など多岐にわたります。セミナーでは、最後に参加者がグループに分かれて意見交換を行いました。終了後のアンケートでは、「岡山の先進的なSDGsの実践例や新しい取り組みを学ぶことができた」、「福井の企業や市民団体もSDGsに積極的に取り組もうとしているのが肌で感じられた」などの声をいただきました。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 持続可能な開発目標(SDGs)とは

2015年9月の国連サミットにおいて、全会一致で採択された2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール(目標)と169のターゲット(より具体的な目標)から構成され、「誰一人取り残さない(no one will be left behind)」という共通理念を掲げています。SDGsは、発展途上国のみならず、先進国も含めて世界中の国や地域が取り組むべき目標であり、私たち一人ひとりが達成に向けて主体的にアクションすることが求められています。

## 講座情報

新型コロナウイルス感染症対策で、日程の変更や中止になる場合がありますので、詳しくは [福井市ボランティアネット](#)  でご確認ください。

タイトル	日時	会場・定員	事業内容
ボランティアアカデミー 「ものづくりコース」	2月10日、17日、24日、 3月3日(各水曜) 13:30~15:30	総合ボランティアセンター 定員:20人(先着順) 受講料:無料	がん患者とその家族をサポートする活動を学び、抗がん剤治療によって生じる体の冷えを緩和する小豆カイロや、ラッピング、メッセージカードづくりを体験します。
ボランティアアカデミー ステップアップ 「絵本読み聞かせ講座」	2月21日(日) 13:30~15:30	総合ボランティアセンター 定員:15人(先着順) 受講料:無料	子どもの絵本読み聞かせボランティア活動に興味や関心のある方が対象。読み聞かせのコツや技術を学び、子どもたちに絵本の楽しさを伝えましょう。
市民ボランティア活動促進事業 「足羽山でお宝さがし」	2月27日(土) 13:30~15:30	自然史博物館及び周辺 定員:10人(先着順) 受講料:無料	自然史博物館の学芸員を講師に、越冬した虫が暮らす朽木拾いを体験し、自然の宝庫足羽山の環境整備ボランティアについて学びます。
受入ボランティアスキルアップ事業 「リスクマネジメント オンラインセミナー」	2月18日(木) 13:30~16:00	※オンラインセミナー 定員:30人(先着順) 受講料:無料	日本ボランティアコーディネーター協会の後藤麻理子氏を講師に、ボランティア受入れにおけるリスクマネジメントについて学びます。 (福井市社会福祉協議会ボランティアセンター共催)
NPO基盤強化セミナー 「市民活動に使える LINE活用講座」	1月16日(土) 13:30~15:00	総合ボランティアセンター 定員:15人(先着順) 受講料:無料	ドコモショップ社南店のご協力により、市民活動団体の広報や連絡に役立つ、スマートフォンアプリ「ライン」の使い方を学びます。
NPO基盤強化セミナー 「市民活動を応援する 助成金事業合同説明会」	2月14日(日) 13:00~16:30	総合ボランティアセンター 定員:25人(先着順) 受講料:無料	地域や社会のための活動を応援する各種助成金について、助成7団体が説明します。評価ポイントや申請のコツを学んで、活動資金の獲得に活かしてみませんか？
NPO基盤強化セミナー 「市民活動のための AED・救命講習」	2月28日(日) 10:00~11:30	総合ボランティアセンター 定員:12人(先着順) 受講料:無料	市民活動やボランティア活動のなかで、いざという時のために適切な処置が出来るよう、AEDの使い方や救命処置を分かりやすく学びます。
NPO基盤強化セミナー 「ちゃんと楽しく社会をよくする 仕組みのデザイン」(仮題)	3月3日(水) 19:00~21:00	総合ボランティアセンター 定員:15人(先着順) 受講料:無料	「ゆるい移住全国版」ディレクターの森一貴氏を講師に、市民活動に関わる多様な事例から、市民活動の活性化や協働につながるヒントを学びます。

※当日はマスクを着用してご参加ください。また、検温のご協力をお願いします。

## みんなの活動 パネル展2020 Thanks!

今年もハピリンで開催。工夫を凝らした展示をしていただいた団体、そして楽しいワークショップをしていただいた団体のみなさん！ご協力ありがとうございました。コロナ禍でもにぎやかなイベントとなりました。



自分にできることを、見つけよう！  
**福井市総合ボランティアセンター**

[福井市ボランティアネット](#) 

### 総ボラではこんなことができます

- あなたにあった活動が見つかります！
- ボランティアの情報がわかります！
- 講座や交流会に参加できます！
- 交流ひろばや研修室がつかえます！
- チラシやポスターが印刷できます！

〒910-0006 福井市中央1丁目2-1ハピリン4階  
福井市市民生活部市民協働・ボランティア推進課  
TEL:0776-20-5107 FAX:0776-20-5168  
E-mail:volunteer@city.fukui.lg.jp

- 開所時間 火曜日～金曜日 9時から21時  
土曜日・日曜日 9時から17時
- 休所日 月曜日、祝日、年末年始  
(祝日が土日の場合は開館)

Twitter やってます！

